

第3回ワークショップの結果概要

1 公共施設の再編方針（案）について

1) 集会施設

【山田交流促進センター】

- 旧山田村時代には講演会や表彰式など重要なイベントでよく利用されていた。今は以前ほど利用されなくなり、利用率が低くなっている。残念ではあるが、廃止はやむを得ないだろう。
- 集会施設という用途にこだわらず、多目的に利用できるようにすることで、有効活用をする検討をしてみてもどうか。

2) 図書館

- 学校にあることで、子どもたちは利用しやすく、親も借りやすく便利である。現状のままで良いと思う。
- 学校内に図書館があることで一般の人が使いづらい面がある。公民館と中核型地区センターを複合化するのであれば、これを機にかつてのように公民館に戻すことも良いのではないか。

3) スポーツ施設（体育館、その他のスポーツ施設）

【山田総合体育センター、山田総合グラウンド共通】

- 短期的取組み、中長期的取組みともに、意見が反映されていると思う。
- 地域住民はあまり利用しておらず、利用するとしても総合グラウンドで開催している住民スポーツ大会があるが、小・中学校のグラウンドでも開催できると思うので、廃止になっても影響は少ないのではないか。
- 避難場所として指定されており、また災害時のヘリコプターやドクターヘリの着陸スペースになっている。山田公民館や山田中核型地区センターより水害などの面で安全なエリアだと思うので、施設を廃止することになっても、その機能は維持してほしい。
- 社会体育の活動拠点になっていることから、地域内で利用率の向上を目指すよりも、他地域の人に利用してもらうよう工夫するのが良いと思う。
- 宿泊施設と連携し、スポーツ合宿で利用できるようにすれば、平日利用も増えるのではないか。

【山田総合体育センター】

- 利用料がかかるので、地域住民は学校開放を利用している。スポーツ施設としての機能は学校開放で足りているので、廃止になってもあまり地域住民としては支障はないと思う。

4) レクリエーション・観光施設

【全般】

- 個別に運営がされていることで、全体的に利用率アップなどの効果が出ていないと思う。ささみねや牛岳温泉健康センターなどとの施設間の連携や複数の施設を一体的に運営するなど工夫をしてはどうか。

【牛岳温泉健康センター】

- 牛岳温泉健康センターなど、既に民間が運営している施設が地域内にあるが、利用者が減少していることから、さらに民間の運営ノウハウを活用し、利用促進及び運営の効率化を図る対策が必要だと思っている。

【牛岳温泉スキー場管理事務所】

- 低地で雪が多く降らないが、人工造雪機を導入していることで、冬期にずっとスキーができるということを山田の魅力のひとつとして打ち出し、牛岳温泉スキー場が廃止にならないように前向きな検討をしてほしい。
- 牛岳温泉スキー場を残してほしいと要望するだけでなく、どうすれば存続できるかを地域住民も考えていかなければいけない。存続できるのであれば、運営主体は民間でも良いと思う。

【その他】

- 昨年度の市の予算をみて、牛岳温泉スキー場には多くの予算がついていることを知り、内訳を知りたいと思った。スキー場に多くの予算を費やすのであれば、福祉機能の充実などに使ってほしい気持ちもある。
- フォレストアメニティ展望台は、現在、管理もされておらず、展望台として機能していない。老朽化も進み危険であることから廃止しても良いと思う。

5) 産業系施設

- 運営の工夫によって利用者が増えているが、冷房設備や冷蔵設備がなかったり、駐車場が狭いことから、それらの整備をすることで、さらに有効活用できるようにしてほしい。運営状態が良いので現在の運営組織に建物の譲渡をするのも良いと思う。譲渡をした上で市が

改修費などを補助できれば、運営の幅も広がり、さらに魅力的な施設となって、利用者も増えるのではないだろうか。

6) 学校（小学校、中学校）・その他教育施設

- 小・中学校の統廃合の方針が 12 月に示されると聞いているので、学校については、この場で話し合うことではないのではないか。
- 小・中学校を現状のまま残してほしいと思っても、児童数、生徒数が少なければ、市としては統廃合となってしまう。山田地域からも、市へ解決策を提案していきたいと思っている。
- 野外教育活動センター周辺は、五右衛門風呂など設備は良いものがあるが、教育施設であることから、地域住民はあまり利用していない。廃止となっても地域にとっては支障はないと思う。
- 野外教育活動センターは、登山ができ温泉などもあり、県所有の教育施設にはない特色を持つ。また、利用率向上のためには、今後、山田地域ならではの自然体験プログラムを考えるなどして利用価値を高め、有効活用すべきである。

7) 幼保・子ども園（保育所）

- 建物の老朽化が進んでいる。「中長期的取組み」の方針を「短期的取組み」に繰り上げることで、早くあり方の検討を進めた方が良い。
- 「中長期的取組み」で、「あり方を見直す」とあるが、廃止のあり方の検討ではなく、魅力ある保育所づくりに向けたあり方の検討をしてほしい。山田保育所が廃止になったら山田地域の人口は減少し、若い世代は山田地域から出ていってしまうだろう。
- 山田保育所も山田児童館も老朽化しているので、新しく建て直して複合化するのはどうか。保育機能の維持と児童館存続のための一つの策になるだろう。
- 保育所と小・中学校の再編方針については、子どもの教育のためにも一体で考えてほしい。その方が通園や通学をさせている保護者や子どもたちの利便性も向上し、教育面でも良い方向になると思う。

8) 児童館

- 山田保育所も山田児童館も老朽化しているので、新しく建て直して複合化するのはどうか。保育機能の維持と児童館存続のための一つの策になるだろう。

2 個別具体施設の整備方針（案）について

■ A 案・B 案共通

- 山田公民館と山田中核型地区センターを複合化することで、設備も機能も充実し、利便性が高まるので、魅力的なコミュニティ施設になるだろう。
- 山田交流促進センターは、まだ利用できると思う。多目的施設にするなどして、残すことを検討してほしい。

■ A 案

- 集会施設機能は、山田公民館があるので、山田交流促進センターは建物だけでなく、機能自体も廃止して良いのではないかな。
- 放課後、子どもたちは小学校から児童館へ移動することになるので、山田児童館は小学校から近い場所にあった方が良くと思う。
- 山田児童館を小学校の余裕教室に移転させれば、放課後にそのまま学校内にいられるので子どもたちの安全性を確保できる。
- 小学校と山田児童館が離れてしまうため、移動のためのバスを用意するなどして子どもたちが安心・安全に移動し、施設利用できるよう工夫をお願いしたい。
- 山田児童館が山田公民館に複合化されることで、公民館近くにある民間の学童保育とも連携が図れるのではないかな。また、放課後に習い事で公民館に来ている児童もいるので、児童館が移転したら放課後の子どもの集い場にもなる。今よりも地域の目も行きわたり、子どもの安全の面でも良いかもしれない。
- 公民館の増築部分はそのまま利用できるし、耐震補強されていない古い建物部分は鉄骨造であることから、改修費が安く抑えられるだろう。コスト面で A 案は良いと思う。
- 長所に「駐車スペースが十分に確保できる。」とあるが、不足する場合は、公民館から少し距離はあるが、山田中核型地区センターの跡地に駐車スペースを確保すれば良いのではないかな。災害時にも避難先として利用できるだろう。

- 懸念事項は山田川の氾濫について、県が河川改修工事をしているが、必要であれば追加工事等、確実な災害対策をしてほしい。

■ B 案

- スペースの問題や避難所などの災害時対応のあり方、また、山田公民館の跡地活用のあり方など、A 案より検討するべきことが多いように思う。
- 山田中核型地区センターに、山田交流促進センターと山田公民館の機能を複合化するほどのスペースがないのではないかと。駐車スペースも足りないと思う。耐震補強や建物改修もしなくてはならず、整備費が A 案よりかかると思う。また、公民館からの音が近隣へ響いたりしないか心配である。

3

評価項目について

- これまでのワークショップの議論を踏まえて、山田地域が良くなるような評価項目になっていると思う。
- 複合化することで、保育所や児童館への子どもの移動といったアクセスについて安全面の懸念があるため、③の子育て環境の充実の評価項目に、「子どものアクセスの安全性を確保できているか」を追加してほしい。

4

その他

- ワークショップに参加しているシニア世代の意見と、これからを担う若い世代の意見は違うと思うので、若い世代や施設利用者の意見もしっかり聞いた上で検討してほしい。
- 再編の検討の途中段階で、市の職員の配置換えがあったとしても、話し合った内容はきちんと引き継いでほしい。現在、市としては牛岳温泉スキー場を存続する方針とのことだが、途中で方針が変わらないか心配している。
- 山田地域を活性化させるために、地域おこし協力隊の制度をもっと活用してほしい。